

## [課題演習概要]

# 小学校道徳科の話し合い活動における思考ツールの活用 —自己と異なる考えに着目して—

片 川 優 美

Yumi KATAGAWA

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻教育実践力開発コース  
教職教育高度実践力プログラム

(2024 年 1 月 10 日受理)

キーワード：思考ツール，キャンディチャート，綱引きチャート，話し合い活動

## 1 研究の目的

本研究では、話し合いの前段階において、子どもが自己の考えを整理することや、話し合い活動で、自己と異なる他者の考えへ着目することに思考ツールが有効であるか検証する。

近年、子どもを取り巻く社会状況も急激に変化している中で「正解のない課題に対応していくためには、一人ひとりが自らの価値観を形成していくと共に、(中略)他者と協働しながら、よりよい解決に向けての視点や方策を見出していく力が不可欠である」(七條 2021) という指摘もある。

思考ツールの役割としては、「アイディアを書き出して可視化し、思考を組み立てるのをサポートする」(黒上 2019) ことが挙げられる。田村・黒上 (2014) は、グループでの話し合いにおいて、同じ形式でアイディアを書き表すことで、他人の考えを理解しやすくなることを含む相互理解を助けるという思考ツールの価値を挙げている。思考ツールは、考えを整理して伝えることや他の人の考えを理解しやすくなることなど、話し合いの際に有効であると分かる。とりわけ、道徳科においては、

「1つの教材でも、さまざまな場面で(中略)使」(黒上 2019) うことができるという指摘もある。例えば、葛藤する場面の話し合いにおいて、綱引きチャート(以後 TC)で立場の変化が見える化することで、活発に議論できたという事例(水野 2019)もある。

本研究では、思考ツールの中でも、キャンディチャート(以後 CC)と TC の 2 つを使用した。CC は、「条件(もし～が～だったら)、結果(～なる)、

理由(なぜなら～だからだ)」という形で、仮定にもとづいて結果を「見通す」ことや「推論すること」をうながす(田村・黒上 2013)ものである。黒上・小島・泰山(2012)は、CCについて「仮定したことに対して(中略)理由や根拠を探してやることを、意識させ」と示している。加えて、CCを左から右に順に読むことで、発表を円滑にできると考えた。また、TCは自己の考えの位置を可視化し、明確にするツールであり、自己と他者の立場の違いに気付くことや質問し合うことに繋がると考えた。

これまで道徳科において、CCやTCを使用した研究はあるものの、初めて思考ツールを使う子どもへの効果やCCとTCを同時に使用することの有効性を明らかにする研究が十分とはいえない。そこで、本研究では、次の2点を明らかにする。①思考ツール導入段階において自己の考えを整理する上で、CCが有効であるか。②話し合い活動において、CCとTCを組み合わせることで、自己と異なる他者の考えに着目することへ繋がるか。

## 2 研究の計画

授業実践は、公立X小学校第4学年Y組(37名)を対象に、計4回行った。学級の子どもは、CCとTCを初めて使用する。使用した教材は「新訂 新しいどうとく4」(東京書籍 2020)である。第1・2回授業後に、CCを使ってどのように感じたかアンケートを自由記述で実施した。第3・4回は、話し合いの際、CCとTCの2つを使用し、第4回授業後に、2つのチャートを使ってどのように感じたかアンケートを実施し、分析を行った。

表 1 授業実践の概要

	実施日	出席者数	使用ツール	教材名
第1回	2023.6.15	35名	CC	なにかお手っだいでできることはありますか？
第2回	2023.6.28	37名	CC	合い言葉は「話せばわかる！」
第3回	2023.11.15	34名	CC・TC	ひびが入った水そう
第4回	2023.12.6	33名	CC・TC	大きな絵はがき

### 3 研究の内容

#### (1) 思考ツールの導入段階における有効性

第1回では、登場人物と同じ状況の時、どのように行動するかとその理由について CC に整理させた。アンケート回答 (35 人) は、「使いやすい」など肯定的な回答が 32 人、「ちょっとわからない」が 1 人、その他(使い方に関する事以外)の記述が 2 人であった。第2回では、終末段階で「もし、これから、友だちと意見が合わなかったらどうするか、なぜなら…」について考える際に CC を使った。アンケート回答 (37 人) は、「使いやすい」など肯定的な回答が 32 人、その他が 5 人であった。また、第1回後に、「ちょっとわからない」と記入した子どもが「使いやすかった」と記述していた。これらのことから、CC は思考ツールを初めて使用する子どもにとっても使いやすいものであると考えられる。

#### (2) CC と TC の組み合わせの有効性

第3・4回の授業では、CC に自己の考えを整理した後、TC を使って、なぜその位置にしたのか、そのように考える理由を交流する時間を設定した。

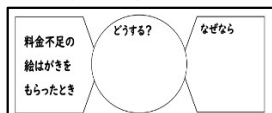


図 1 使用した CC 例

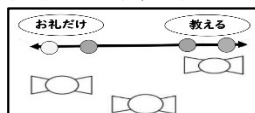


図 2 使用した TC 例

第4回授業後のアンケートについて、全体 (33 人回答) と今回グループ交流の際に注目した子ども (A・B・C・D 児) の結果を表2に示す。

表 2 第4回授業後のアンケート結果

質問項目	全体平均	A児	B児	C児	D児
①自分の考えを伝えることができたか	4.18	5	4	4	5
②似ている考えやちがう考えに気づいたか	4.61	4	5	5	5
③自分の考えがはっきりしたか	4.06	5	4	5	5
④話しやすさ	4.36	5	3	5	5
⑤質問が浮かんだか	3.15	3	4	5	5

アンケート結果から、「似ている考えやちがう考えに気づいたか」については数値が高く、他者との考えの違いを認識できたことが分かる。2つのチャートを使った際の子どもの会話例を次に示す(撮影ビデオより文字起こしを行った)。

話し合いの内容「仲の良い友達から料金不足のはがきが送られてきた時、どうするか」  
—全員が CC の内容を伝え終えた後—  
教師：意見が割れてるね。みんなそれぞれ意見がありそうやね。

理由(を)聞いた？

みんな：うん。  
教師：Dさんはどこ？  
—みんなで TC の位置の確認をする—  
A 児：(D さんがお礼だけ伝える側にした) 理由は、伝えなくてもいいことがあるから。  
教師：(料金不足を) 教える側の人は何って言うたの？  
D 児：(他の人に料金不足で送ってしまったら) 迷惑になるからって。  
教師：うん、その気持ちもわかる？  
D 児：うん。

このような会話からも、人によって考えが違ふこと、また自己と違う考えに触れながら、自己の考えを深めていることが分かる。

また、全体交流では、TC における自己の考えの位置についてマグネットを使って黒板に示す場を設けた結果、意見が両端に割れている中で、真ん中にマグネットを置いた 2 名の子どもに対し、理由をたずねる子どもの発言もあった。このことから、TC は他者との考えの違いに気づき、理由を聞きたいという子どもの思いを引き出す上でも有効であると考えた。

### 4 成果と課題

目的①について CC は、初めて思考ツールを使用する子どもにとっても使いやすいものであると分かった。目的②については、TC を使うことで、他者と自己の考えの違いを視覚的に把握でき、他者の考えの理由に関心をもつ子どもの様子が見られたことから、他者の考えに着目するという点で有効であると考えた。しかし、教師の声掛けにより話し合いが進み、他者との考えの違いに気づくことも多かった。子ども主体で話し合いを進めるためには、回数を重ねることやお互いに質問し合うための工夫が必要だと考えられる。

### 主な引用・参考文献

- 黒上晴夫 2019「思考ツールと考える道徳」『思考ツールでつくる考える道徳』小学館 pp. 14-15
- 黒上晴夫・小島亜華里・泰山裕 2012『シンキングツール～考えることを教えたい～短縮版』[http://ks-lab.net/haruo/thinking\\_tool/short.pdf](http://ks-lab.net/haruo/thinking_tool/short.pdf) (最終確認日 2024. 1. 7) <http://www.ks-lab.net/haruo/> (最終確認日 2024. 1. 7)
- 七條正典 2021「第1章 中学校生徒の発達課題と道徳教育」日本道徳教育学会全集編集委員会・柴原弘志・七條正典・澤田浩一・吉本恒幸『新道徳教育全集 第4巻 中学校、高等学校、特別支援教育における新しい道徳教育』学文社 pp. 7-8
- 田村学・黒上晴夫 2013『考えるってこういうことか！「思考ツール」の授業』小学館 p. 124
- 田村学・黒上晴夫 2014『こうすれば考える力がつく！中学校思考ツール』小学館 pp. 18-19
- 水野泰斗 2019「いじりといじめ」前掲 1) pp. 42-45